



第三十五号

発行日 平成二十八年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六一二七七一九〇〇三

神社のはじまり ①

自然の恵みと祖先の恩に感謝

熊本地震、鳥取県中部地震の被災地の皆様には、お見舞い申し上げます。

日常生活が平穩に過ごせることは、大変ありがたいことです。自然は、私たちに色々な恵みを与えてくださいますが、一方では大きな災いを招くことがあります。現代では、自然現象のしくみも次第に解明されてきたり、制御されていますが、私たちは、自然と共存しなければ生きていくことはできません。

豊かな太陽と水に恵まれた気候風土のもとで生き続けてきた私達の祖先は、豊かな心をはぐくみました。そして、天地自然の恵みのもとで、人々の心の中に、山にも川にも海にも木や石にもあらゆるものに「神」を見つけました。そして、その神の思召しやお計らいこそは、子に対する親の心とまったく同じであり、「あらゆるおかげは、祖神のおはから

いによるもの」と考えました。

悠久の昔、私達の祖先達がいつしか社会生活を営むようになったとき、心のより所として、また生活の中心として、そのおかげに報いるために自然の恵みの源泉である「神聖な森」にお祭りし、感謝の真心を捧げるようになりました。それが神社の始まりであり、お祭りの始まりとなりました。

共同の祖神は氏神と呼ばれ、氏神にお仕える集落の人々を氏子というようになりました。地域ぐるみの氏神・氏子という慣習は、今も変わりません。

石高神社のホームページ

ホームページをご覧になるには、「石高神社」で検索するのが一番便利です。アドレスとQRコードも載せておきます。ホームページには、行事の情報や過去の社報などを載せていますので、ご利用ください。

<http://ishitakajinja.web.fc2.com/>



石高神社のおもな行事

◎初詣

一月一日午前〇時から歳旦祭を行い、三が日は午前九時から午後五時まで、皆様のお参りをお待ちしています。どうぞ一番ご縁の深い氏神様にお参りして一年を幸せにお過ごしくください。

◎どんど祭および古神札焼却祭

毎年一月十四日以降の一番早い土日祭日に行うこととしています。平成二十九年は一月十四日(土)です。正月のお飾りのほか、古い御神札・お守りの焼却も行います。

なお、ビニール、プラスチック、金属類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼却します。また、例年通りせんざいを二百食用意する予定です。

平成29年の
どんどまつり

1月14日(土)
午前10時から
11時半頃まで

せんざいの接待
もあります。

◎厄払い

厄年には、その年に災いが起こらないように、神社などでお祓いを受ける慣習があります。祝年には、長寿を家族でお祝いし、感謝と喜びを神さまに奉告します。一般には元日から節分のころまでにお参りするものとされています。

平成二十九年のおもな厄年と祝い年を一覧表にしましたので参考にしてください。祝い年は男女ともに同じです。また、特に男四十二歳と女三十三歳は大厄とされ、前後には、前厄と後厄があります。

平成29年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成11年
男25歳	平成5年
女33歳	昭和60年
男42歳	昭和51年
還暦祝	昭和32年
古希祝	昭和23年
喜寿祝	昭和16年
傘寿祝	昭和13年
米寿祝	昭和5年
卒寿祝	昭和3年
白寿祝	大正8年

◎輪くぐりの祭

夏祭りの輪くぐりは、毎年七月三十一日の晩です。夜店も出ます。七月にあらためてご案内します。

◎秋祭り

毎年十月三〜五日が秋祭りです。この内、夜店が出るのは、氏参りの三日だけです。今年の出店は九

でした。

◎その他、七五三詣で、初宮参り、自動車清祓、各種祈願、地鎮祭などの出張祭典を随時受け賜っています。お電話でお気軽にご相談ください。

宮山の変化と手入れ

宮司が子供の頃には、宮山は松の木で覆われ、南方を見渡せる見晴らしのよい場所でした。しかし、昭和四十年代に入ると薪を必要としなくなり、宮山も近隣の山と同様に松喰い虫と植物遷移によって雑木林になってしまいました。また、昭和四十五年ごろには、宮山の東から北側の一部を市道に供出して、自動車参道がつけられました。

昭和五十年代までは、山北から「沢田越」を越えてお参りに来られていましたので、秋祭りの前には、総代さんを中心にその方面の道つくりをしていました。道つくりをしなくなつてからは、総代さんが集まつての作業は無くなりましたが、平成八年から「宮山の手入れ」をすることにしました。氏子の皆様のご協力を得て、毎年十二月の始めの日曜日に実施しています。

今年は、十二月四日に東側の伸びた木の枝打ちを重点的に行うことにしています。毎年継続していく予定です。ので、来年以降もご協力をよろしくお願い申し上げます。

境内の生物 ⑨ テイカカズラ

常緑のつる性の木で、茎は長く伸び、地を這つたり付着根を出して樹木や岩にからみつきます。当社では、石垣の間に根を張つたり、社務所前のサカキなどからみつくので、気が付くたびに除去しています。香気のある白い花を六月ごろにつけ、秋には細長いさや状の果実が二個ずつ垂れ下がります。斑入りなどの多くの園芸品種があり、花壇でもみかけることがあります。



金幣・真榊の奉納

昨年の隨身門完成を記念して、金幣と真榊を宮司が奉納しました。金幣は常設、真榊は祭りに設置する予定です。

金幣とは、金色の御幣のことです。幣は、古語では又サと読み、もともとは織物を意味していました。衣料は古代人にとつ

極めて貴重なものでしたので、神々へのお供え物に用いられていましたが、神の象徴や宿るものと変化したり、罪・穢れを祓う用具として使われるようにもなりました。今回奉納された吊り下げ型の金幣は、すべての用に使われています。

真榊(まさかき)は、榊の木と五色絹を左右相對して立て、向かって右に勾玉と鏡、左に劍を飾り付けたものです。古代では、神への捧げものとして、現代では、社頭の装飾として用いられています。

石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段を上がる参道があります。自動車でお参りの場合は、宮山の東側を山に沿って進むと、北側から山に上がる道があります。少し上った左側の空き地、または右にもう少し上がった本殿の裏に駐車するのが便利です。さらに南に進むことができますが、行き止まりになります。正月の昼間には混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いをお願いします。また、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

下図のように、自動車参道の新しい案内板を設置しましたので目印にしてください。東から来られると、よく目立つようになります。

